自衛隊の現場

硫黄島（東京都）
日米合同慰霊顕彰式を支援
歴史を胸に、厳粛な式典を円滑に遂行

3月29日、海上自衛隊硫黄島航空基地隊（司令・宮崎研三1等海佐）は、戦後80年の節目にあたる硫黄島において実施された「日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式」および「硫黄島戦没者慰霊追悼顕彰式」に関連する諸行事の支援を行いました。

本式典には、石破茂内閣総理大臣をはじめ、中谷元防衛大臣、福岡資麿厚生労働大臣を含む各閣僚および国会議員が参列されました。

さらに、米国からは国防長官、駐日米国臨時代理大使らが出席され、日米両国による厳粛な慰霊の場となりました。

硫黄島航空基地隊は、式典の計画段階から関与し、関係者の宿泊、給養、車両運行など細部にわたる支援を実施しました。

式典終了後には、島内の戦跡を巡る巡拝を実施し、各所で史実に基づいた説明を行いました。

隊員一人一人の周到な準備と的確な支援により、式典および関連行事は滞りなく進行し、歴史の重みを胸に刻む貴重な機会ともなりました。

支援任務終了後には、海上幕僚長、航空集団司令官、第4航空群司令、硫黄島航空基地隊司令以下、参列した隊員一同が、式典支援の成功を喜び合い、達成感を共有しました。

日米再会記念碑の前で日米の国旗を掲げ式典

練馬（東京都）
硫黄島で日米合同の慰霊式
戦後80年　日米の友好と恒久平和を祈念

3月29日、陸上自衛隊第1師団（師団長・鳥海誠司陸将）は太平洋戦争末期の激戦地である硫黄島において挙行された「令和6年度日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式」に、第1普通科連隊（連隊長・徳部大介1等陸佐）から旗衛隊および儀じょう隊を派遣いたしました。

この慰霊式は、戦後50年の節目にあたる平成7年より、日米友好を目的として始まり、今日まで途切れることなく継続されております。本年は、戦後80年という大きな節目を迎えるにあたり、儀じょう隊も式典に加わり、日米再会記念碑の前において、硫黄島の戦いで命を落とされた戦没者への深い追悼の意を捧げるとともに、日米両国の友好と恒久平和を心より祈念いたしました。

式典に参列した隊員一人一人は、先人の尊い犠牲に思いを馳せ、国のために命を捧げられた日米両国の戦没者のご冥福を厳かに祈りました。

また、日米両国の旗衛隊および儀じょう隊は、記念碑前において固い握手を交わし、平和と友好の絆を一層強める場となりました。

固い握手を交わす日米両隊員

対馬（長崎県）
新たな防人（さきもり）49人が対馬に着任
家族オリエンテーションで地域一体の防衛へ

令和6年度後期の異動により、陸上自衛隊対馬駐屯地（司令・山田憲和1等陸佐）には、自衛官・事務官あわせて49人が新たに着任しました。

北は北海道美幌町から南は沖縄県宮古島まで、全国各地から集った防人たちは、国境離島である対馬の防衛という重要な任務に就くことになります。

3月26日に実施された転入者紹介行事において、駐屯地司令は「まず家族のケアを最優先すること。引っ越しの負担を配偶者にかけないように。分からないことがあれば、対馬市出身の最先任上級曹長・友永陸曹長（3月14日着任）に相談を」と述べ、家族への配慮を強く求めました。

式の最後には、司令と転入者による敬礼が交わされ、紹介行事は厳かに終了しました。

続いて、新着任者に対して駐屯地の概況、対馬の歴史、生活環境などを説明する教育が行われ、対馬への理解を深め、不安の軽減と地域への帰属意識の醸成が図られました。

さらにその週末には、帯同家族を対象とした家族オリエンテーションを実施。住宅事情や日常生活の情報を共有し、生活基盤の把握と安心感の提供に努めました。

今後も対馬駐屯地は、新たな仲間とともに、地域と連携しながら国境の島の防衛・警備任務を力強く遂行してまいります。

転入者の紹介

函館（北海道）
令和7年度第1次連隊練成訓練を実施
万全な防御準備と連携で敵の侵攻を阻止

陸上自衛隊第28普通科連隊（連隊長・廣山俊一1等陸佐）は4月18日から23日までの6日間、駒ケ岳演習場において、令和7年度第1次連隊練成訓練を実施しました。

本訓練は、各中隊および隷下部隊の作戦遂行能力の向上を目的とし、陣地の占領から防御戦闘に至る一連の行動を、連続した状況下で実戦的に演練するものです。

訓練期間中は、激しい雨や雷に見舞われるなど、厳しい気象条件の中での行動を強いられましたが、各部隊は状況に応じて柔軟に対応。与えられた任務を的確に遂行し、万全な防御準備を整えて敵に備えました。

特に防御態勢では、隊員同士の緊密な連携と的確な警戒態勢によって、敵の侵入を未然に防止。個々の隊員がそれぞれの任務を確実に遂行し、連隊としての一体感と即応力が際立つ場面が多く見られました。

また、練成の随所では、部隊全体の意思疎通や状況判断能力が試される場面も多く、実戦に即した高い緊張感の下、指揮官を中心とした統制能力と現場の判断力が遺憾なく発揮されました。

連隊は今回の訓練を通じて得られた成果や課題を精査し、今後のさらなる練成と部隊の精強化に継続して取り組んでいく方針です。

状況に応じて柔軟に対応し任務を遂行

対戦車地雷を埋設

久居（三重県）
若人たちの門出を祝福
入隊・入校者激励会を支援

3月8日、陸上自衛隊第33普通科連隊（司令・南平勇将1等陸佐）は、津リージョンプラザで実施された「令和6年度 三重県自衛隊入隊・入校者激励会」の支援を行いました。

本行事は、三重県自衛隊家族会、三重県防衛協会連合会、三重県隊友会の共催により開催され、県内外から集まった入隊・入校予定者に対して、激励と自衛官としての自信を高めることを目的としています。

当日は、暖かな日差しの中、緊張した面持ちの若者たちが会場に集いました。行事は2部構成で進行され、第1部では国歌斉唱に続き、防衛協会連合会・伊藤誠恭会長によるあいさつが行われました。その後、陸・海・空・自衛隊、高等工科学校の各先輩隊員が代表して激励の言葉を述べ、陸自代表として第33普通科連隊・重迫撃砲中隊の山門陸士長が力強くエールを送りました。

第2部では、各団体による催しが行われ、会場は一転して和やかな雰囲気に包まれました。第33普通科連隊らっぱ隊（らっぱ隊長・藤掛2等陸曹）が自衛隊の日課号音を披露し、藤掛2等陸曹のユーモアを交えた解説により、初めて号音を耳にする参加者からも多くの拍手が寄せられました。本激励会は、入隊・入校予定者にとって不安を和らげるとともに、自衛隊への理解と期待を深める場となり、晴れやかな門出を祝う中で幕を閉じました。

エールを送る山門陸士長

硫黄島（東京都）
硫黄島における行幸啓を支援
厳粛な空気の中、万全の体制で任務を完遂

4月7日、海上自衛隊硫黄島航空基地隊（司令・宮崎研三1等海佐）は、硫黄島における天皇皇后両陛下の行幸啓を支援しました。

当日は朝から雨が降り続き、天候は不安定でしたが、政府専用機にてご到着された両陛下が硫黄島の地に降り立たれた際には、不思議にも雨が一時的に止み、式典は厳粛な空気に包まれました。

両陛下は島内の天山慰霊碑、硫黄島島民平和祈念墓地公園、鎮魂の丘を御拝礼されました。

御拝礼の間に天候は次第に回復し、お見送りの際には完全に雨が止み、澄み渡る空の下で整列した多くの自衛隊員に対し、両陛下からご丁寧なお声がけをいただきました。

硫黄島航空基地隊においては、今回の行幸啓を万全の体制でお迎えするため、関係者の宿泊、給養、車両運行に加え、島内各所の整備に至るまで、綿密な準備を重ねてまいりました。

また、本番に先立ちリハーサルも実施し、万全の態勢で当日に臨みました。

行幸啓終了後には、案内を務めた海上幕僚長、海上幕僚監部総務部長、第4航空群司令をはじめ、硫黄島航空基地隊司令以下全隊員と共に、任務達成の喜びを分かち合いました。

陛下のご到着に際し、整列した隊員が厳かに敬礼

久留米（福岡県）
創立73周年記念行事を挙行
自候生約90人が堂々たる徒歩行進を披露

4月26日、陸上自衛隊久留米駐屯地（司令・有村義治1等陸佐）は創立73周年記念行事を挙行。式典に先立ち、駐屯地司令感謝状贈呈式を執り行い、隊務運営や士気高揚に多大な貢献をいただいた9人の方々へ、感謝状と記念品を贈呈いたしました。

当日は3000人を超える来場者で賑わい、12軒の露店にも長い列ができるなど、盛況を呈しました。

観閲式において、有村司令は「地域と共に」を合言葉に、久留米駐屯地をさらに精強な部隊として育成する決意を述べました。観閲行進では、自衛官候補生約90人が入隊後約1カ月とは思えない堂々たる徒歩行進を披露し、若さと士気の高さを示しました。

車両行進や訓練展示では、16式機動戦闘車による機動力の実演や、普通科部隊による射撃訓練が行われ、来場者の注目を集めました。

式典後は、協力諸団体と記念会食を行い、親睦を深めました。久留米駐屯地は今後も「地域と共に歩む」駐屯地として、隊員育成と部隊訓練に尽力してまいります。

自衛官候補生による堂々たる徒歩行進

福知山（京都府）
令和7年度隊内生活体験を実施
若手社員10人が自衛隊の規律と団結を体感

陸上自衛隊第7普通科連隊（連隊長・佐藤敏人1等陸佐）は、4月16日と17日の両日、福知山市内のSBCカーボン株式会社の社員10人に対し、1泊2日の隊内生活体験を実施しました。

本行事は、企業からの依頼に基づき、若手社員の団結心と規律心の養成を目的として毎年実施しているものです。参加者は駐屯地到着後、迷彩服に着替え、基本教練、徒歩行進、救急法などの訓練に臨みました。

食事や点呼なども体験し、隊員さながらの生活を送りました。中でも徒歩行進では、仲間を気遣う姿が見られ、団体行動の中で絆を深める機会となりました。

体験の所感では「基本動作の重要性を実感した」「食事がおいしかった」「規則正しい生活が厳しい任務を支えていると感じた」などの声が寄せられました。

本体験は、参加者の団結心・規律心の向上に資するとともに、自衛隊への理解と親近感の醸成にも寄与するものとなりました。第7普通科連隊は今後も広報活動に積極的に取り組み、自衛隊への信頼確保に努めてまいります。

心肺蘇生法を訓練

松本（長野県）
松本駐屯地創設75周年記念行事を開催
地域との歴史を振り返り、信頼と絆を深める

4月19日、陸上自衛隊松本駐屯地（司令・秋山伸太郎1等陸佐）は、創設75周年を記念する行事を駐屯地内で開催しました。

式典は、3月の訓練中に殉職された小林1等陸曹への黙祷から始まり、安全管理の徹底を誓う厳粛な雰囲気の中で開幕しました。

当日は、新田泰士長野県副知事（知事代理）、臥雲義尚松本市長、後藤茂之衆議院議員をはじめとする来賓の皆さまを迎え、県内外から約8400人が来場。晴天にも恵まれ、盛大な行事となりました。

秋山司令は「松本駐屯地は、警察予備隊創設と同時に誕生した歴史ある駐屯地であり地域の皆さまの支えがあって今日を迎えることができました」と感謝の意を述べ、また「厳しさを増す安全保障環境の中で即応力と任務完遂能力を備えた強い部隊づくりに努めていく」と決意を語りました。

記念行事では、観閲行進、東部方面音楽隊の演奏、篠ヶ原雲海太鼓・航空自衛隊入間修武太鼓・松本アルプス太鼓による合同演奏、模擬戦闘訓練展示などが行われました。さらに、信州大学吹奏楽団、松商学園パントリング部、松本チアチーム「ラスターズ」、松本美須々ケ丘高校による書道パフォーマンスなど、地域と連携した多彩な催しが駐屯地全域で繰り広げられ、大きな賑わいを見せました。

松本駐屯地は、今後も県内の自治体や関係機関と緊密に連携し、地域住民の皆さまと「共に」「笑顔で」歩む信頼される駐屯地を目指すとしています。

式典中のひとコマ

船岡（宮城県）
地元中学生が剣を交える春の熱戦
第7回船岡駐屯地司令杯剣道大会を開催

4月20日、陸上自衛隊船岡駐屯地（司令・野村和弘陸将補）は、駐屯地体育館にて「船岡駐屯地司令杯剣道大会」を開催しました。

この大会は、駐屯地剣道部の活躍と、地域で盛んな剣道文化を背景に平成25年にスタートしたもので、今回は第7回の開催となります。新型コロナウイルスの影響により、平成30年の開催を最後に一時中止しておりましたが、今年ついに再開となりました。

再開にあたり地元中学校へ参加を募ったところ、過去最多となる男子15チーム・女子15チーム、計30チームが出場する熱戦の舞台となりました。

試合は、4ブロックに分かれたリーグ戦を経て、各ブロックの上位2チームが決勝トーナメントへ進出。選手たちは日頃の練習の成果と勝利への強い気持ちを竹刀に込め、白熱した試合を展開しました。

なかには、この春入学したばかりの1年生選手の姿もあり、上級生に果敢に挑む姿に大きな拍手が送られました。

大会当日は、参加された教員の皆さまから「自分もこの大会に出たことがある」「駐屯地の桜が印象に残っている」といった思い出話も伺うことができ、地域とともに歩んできた大会の歴史が感じられました。

また、隣接する仙台大学剣道部から13人の学生を審判員としてお迎えし、公正かつ円滑な大会運営にご協力いただきました。審判員の方々は、大会後に駐屯地司令との会食・懇談にも参加し、自衛隊への理解を深める貴重な機会ともなりました。

閉会式では、司令より選手たちへ次のような激励の言葉が贈られました。

「選手の皆さまの迫力ある試合、そして礼儀を重んじた凛とした立ち居振る舞いに大変感動しました。大会で得た成果はしっかりと振り返り、良い点はさらに伸ばし、課題は克服に向けて努力を続けてください」

船岡駐屯地は、これからも地域の皆さまの信頼と期待に応えるべく「地域とともに歩む駐屯地」として、さまざまな取り組みに挑戦し続けてまいります。

試合の様子

男子優勝（岩沼西中学校）

女子優勝（南小泉中学校）

福岡（福岡県）
師団創設63周年・駐屯地開設75周年記念行事
地域との絆を深め、任務への決意を新たに

4月20日、陸上自衛隊第4師団（師団長・戒田重雄陸将）および福岡駐屯地（司令・貫藤聖陸将補）は第4師団創立63周年・福岡駐屯地開設75周年記念行事を福岡駐屯地にて実施しました。

本行事は、地域の皆さまに対し部隊の威容と任務遂行体制を示すとともに、第4師団が北部九州という国防上の要所を担っている意義を再確認し、その使命感を広く発信することを目的として行われました。

式典では、国会議員6人をはじめ、服部誠太郎福岡県知事、近隣自治体の首長や議会関係者、歴代師団長など多数のご来賓と一般来場者が参列。整然とした式典の中、各部隊による力強い観閲行進が行われ、来場者に精強な部隊の姿を印象づけました。

また、戒田師団長は式辞で「職務への誇りと特技への自信を持ち、一生懸命に任務にあたる。皆さまの期待に応えるべく努力を重ねてまいります」と決意を述べ、部隊としての姿勢を明確にしました。

感謝状贈呈式では、日頃より自衛隊活動や就職援護にご尽力いただいている功労者の皆さまに対し、師団長から感謝状と記念品が贈られました。

会場では、戦車や装輪車の装備品展示・試乗体験をはじめ、制服試着、写真パネル展示、VR体験、自衛隊紹介コーナーなどが終日実施され、来場者からは「普段見ることができない装備の見学や体験ができた」「子供も大人も楽しめた」といった好評の声が寄せられました。

吉楽演奏やちびっこ広場など、親しみやすい催しも多数行われ、自衛隊への理解と親近感の醸成につながる一日となりました。

第4師団および福岡駐屯地は、これからも地域の皆さまのご支援に感謝しつつ、多様な任務に全力で取り組み、信頼される部隊づくりを推進してまいります。

記念式典

都城（宮崎県）
「都城自衛隊ワイン」販売開始
駐屯地オリジナルラベルの限定品

陸上自衛隊都城駐屯地（司令・石岡直樹1等陸佐）はこのたび、駐屯地オリジナルラベルの「都城自衛隊ワイン」の販売を開始しました。販売は駐屯地敷地内の売店限定で行われています。

ワインは、持ち帰りやすいハーフボトルサイズで、赤・白の2種類を用意。ラベルには、駐屯地のスローガン「地域とともに」の文字が記され、地域とのつながりを象徴するデザインとなっています。

訪問者からは「珍しくてお土産にぴったり」「地域限定の特別感がうれしい」など好評の声が寄せられており、注目を集めています。

都城駐屯地は、今後も地域との連携を深めながら、多様な取り組みを通じて地域社会に貢献していく方針です。

都城自衛隊ワイン（赤・白ハーフボトル）

数字　頭の体操㉗

問題

佐藤くんの今から4年後の年齢は、今から10年前の年齢の3倍になります。

佐藤くんは、今、何歳でしょう。

（解答は、7面に）

（出題・解説：antaka）

＊漢字あそびはお休みします。